第６回東京宝島推進委員会　発言録

日時：令和元年 12 月 24 日（火）16 時 30 分～17 時 30 分
場所：東京都庁第一庁舎７階中会議室

１．開会

【事務局】

それでは、ただいまから第６回「東京宝島推進委員会」を開会致します。

本日は、ご多忙の折、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めます総務局多摩島しょ振興担当部長の石橋でございます。

どうぞ宜しくお願い致します。

議事に入る前に、会議資料についてご説明致します。

本日の会議は、ペーパーレスで行います。会議資料は基本的にお手元のタブレットやテレビモニターに表示し、紙では、議事次第、委員名簿、座席表をお配りしておりますので、ご確認をお願い致します。

それでは、開会にあたりまして、小池知事からご挨拶をお願い致します。

２．知事挨拶

【小池知事】

本日、年末も忙しないときでございますけれども、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

島しょ地域のブランド化を進めていこうという、この委員会でございます。立ち上げましてから、今回で早６回目ということになりました。これまでも貴重なご意見をいただき、また、島の宝物探し、そして磨き上げということで取り組んでいただいてきたところでございます。

また、委員の皆様方におかれましては、島に実際に足を運んでいただきまして、それぞれの島で始まった取組の様子を直接ご覧いただいているかと存じます。

また、今回は、皆様が新たに発見された宝物のご報告をいただいたり、各島のブランド化に向けましたアドバイスなどを頂戴したいと存じます。

また一方で、今回は台風 15 号のときに、あれは風台風で、何と風速約 60 メートルを記録した島もございました。「長年この島に住んでいるけれども初めてだった」という声をあちこちから聞いたわけであります。初めてなぐらい、風が強かったということです。

そういった意味でも、島しょ地域、大変な被害に遭ったところではございますけれども、１日も早く災害から復旧をするとともに、島の防災対策にも万全を期してまいりたいと考えております。

それぞれの分野でのご経験を踏まえての、さまざまなご提言、宜しくお願い申し上げたい

と存じます。どうぞよろしくお願い致します。

【事務局】

小池知事、ありがとうございました。

本日の出席者につきましては、座席表の配付をもって代えさせていただきます。

それでは、この後は山田委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。

山田委員長、お願い致します。

３．議事

【山田委員長】

委員長の山田でございます。

今、お話しいただきましたけれども、知事のほうから仰られたとおり、10 月、11 月と、各委員がいろんな島を訪問しているということで、私は八丈島と三宅島と神津島の３島、これは公式にではなく、去年も私は神津島に行っているんですけども、訪問させていただきました。

それぞれ、各委員の皆さんも、いろいろと島をまわっていただいているということなので、その中でどんな取組がなされているのかとか、どんな印象を受けられたとか、そういうご報告をいただきたいというふうに思っております。

それから、先月、東京宝島会議が開催されました。今年から島会議を開始した７島の皆さんの中間発表がありまして、私とアレックス・カー委員の二人で出席をしましたので、アレックス・カー委員は今日は欠席でビデオレターみたいなものをいただけるそうですけれども、こちらも後ほどご紹介をさせていただきたいというふうに思っております。

本日も皆さんのご協力を以て、実りある会議にしたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

それでは、お手元の議事次第に従って本日の議題に入りたいと思います。

（１）委員からの視察報告とブランド化に向けた助言

【山田委員長】

一つ目は、まず「委員からの視察報告とブランド化に向けた助言」ということになります。

先陣を切らせていただいて申し訳ないのですが、私のほうから、まず八丈島、三宅島、それから神津島、それから、その後に、河野委員から新島、大洞委員からは利島と大島、楓委員からは、アレックス委員も行かれたんですね、青ヶ島、それから八丈島の現地視察の様子等をご報告いただきたいというふうに思っております。

前回、皆さん、いろいろと島を訪問していただいた折には、天候が悪くてなかなかたどり着けなかったみたいなこともあったんですが、今回は皆さん大丈夫だったんですよね。予定どおり行かれたということですね。私も、八丈島と三宅島は、現地の人がびっくりするぐら

いにいい天気だったんですよ。「こんないい天気珍しいよ」と、「あなたはラッキー」と言われましたからね、そういうところで、どんなことがあったかというご報告を簡単にさせていただきたいと思います。

まず、私の報告をお聞きください。

八丈島、三宅島、きれいな写真、これは私が撮った写真じゃないですけれども、本当にこんな感じで晴れ渡っておりました。

そして、本当に、距離から見ますと東京から近い島が三宅島ですね。そして、それからさらに御蔵島を経由して、私、八丈島から行ったんですけれども、大分南のほうに八丈島があるということで、大島、三宅島、八丈島というのは、この東京宝島の中では大きいサイズの島だと思います。

これが地図ですけれども、実際に、この八丈島、形がひょうたん型をしているということで、ひょっこりひょうたん島のモデルになったんじゃないかというようなことを言われております。島の真ん中あたりに集落が集中しておりますけれども、この西側の山の上のほうに牧場がありまして、ふれあい牧場というんですけども、ここを皮切りに我々はご案内をいただきまして、いろいろと巡らせていただきました。

実際に、八丈島というのは、羽田から直行便が飛んでおります。あっという間に着きますけれども、そういう意味では、大変に交通の便は良いということになります。

羽田から八丈島に行きまして、そこで視察をして、一泊させていただいて、翌日はヘリコプターで三宅島に移動する。そして、そこでもまた一泊と。そして、戻りは調布空港の方へ戻るというコースで参りました。

最初の写真は、これはふれあい牧場の様子ですね。本当に景色のいいところだったです。

そして、植物公園ですとか、それから玉石垣というのがあるんですね。これは、沖縄のほうですとこういう形じゃないんですが、やっぱり石積みの壁があるところがありますけれども、こちらの八丈島は、この玉石垣というのが非常に有名でございます。

それから、あとは、観光 MaaS 実現に向けた実証実験というのをやっておりまして、人が運転していない自動運転のバスにも乗らせていただきました。

それから、八丈島といえば、これはもう黄八丈、有名ですよね。これは実際に手機織りをしている「めゆ工房」というところを訪問いたしまして、こちらでいろいろと、どうやってこういう色が出るんだとか、どうやって作るんだというようなところをつぶさに教えていただきました。

また、今日はちょっと、私、黄八丈のネクタイがすごく良かったんで２本も買っちゃったんですけど、今日してくるのを忘れました、すみません。

それから、あと、現地の事業者の魚谷さんという八丈島乳業の方といろいろと意見交換をしました。

それから、お昼には山下町長ともいろんな意見交換をさせていただいたということでございます。

実際に、八丈島というのは、羽田空港から唯一直行便が出ているということで、アクセスがとてもいいわけですね。海外からもいいわけです。

さらに、二つの山を擁する雄大な自然がありながらも、黄八丈とか和太鼓というような伝統文化もあるし、それから縄文時代から人が住んでいて、何と沖縄の南大東、北大東まで船で渡っていってそこを切り開いたという、すごい開拓者魂のある人々が住んでいる島なんですね。

有名な島寿司というのは、実は南大東、北大東にも伝わって、あちらでも島寿司として知られています。

我々一行は非常に天気に恵まれていましたが、日ごろは雨が多いということなんですけれども、雨天でも遊べるような屋内施設が充実をしているというところもなかなかだったと思います。

それから、新潟から来られた歌川さんという方が非常に活躍をされて、古いホテルを復興させるということに成功されています。前にもこの会議に来ていただいて、スピーチをしていただきましたけれども、泊まらせていただいて本当に素晴らしい施設であると感じました。

そして、あと強調しておくべきは酪農ですね。これも、この島の大きな特徴の一つです。いろんな商品開発をされたり、アウトリーチもされておりますので、どんどん売り込んでいただきたいなというふうに思っております。

一方で改善点としては、なかなか知名度は高いんですけれども、それほどに人が来てくれない。こういう状況がこのまま続くと定期便というのも維持が危うくなってきますね。もっと人を呼び込まなきゃいけないということなんですが、雨が多くて風が強い島を「月に 35 日は雨が降る」と言われている屋久島のように逆に特長にしていって、そこを売り込んでいくというのが面白い。雨のときも楽しいですよ、面白いですよというような売り方ですね。

付け加えますと、クロアシアホウドリという、これは天然記念物の絶滅危惧種に指定されている鳥なんですが、無人島の八丈小島に棲んでいるということも知らせていきたい。すごくアクセスがいいということもありまして、これから活気を取り返せるようないろんな取り組みもあるので、ぜひ、山下町長も悩んでおられるんですが、人口減少に歯止めがかかって島の産業がまたリバイタルするように、応援をしたいと思っています。

今度は、こちらは三宅島でございます。

三宅島は本当に真ん丸な島なんですけれども、真ん中の雄山というのがなかなか元気のいい山でございまして、いろんな意味で心配もあるわけですが、実際に、ここはエコツーリズムが非常にいけるんじゃないかなと、今回気付かせていただきました。要は、火山と共存しているというところです。これが素晴らしいんです。自然とある意味で戦いながらも共存しているという、その島民の皆さんの姿勢たるや、素晴らしいというふうに思います。

それから、こうやって見ますと、野鳥の観察ができるというような素晴らしい池、大路池。これはおよそ 2500 年前の噴火でできた池と言われているんですが、こういう池があったり、

サタドー岬のような非常に風光明媚なところもある。こういうところを訪れてみるのもよろしいんじゃないかなというふうに思います。

実際に、20 年に 1 回噴火すると言われてきたんだけれども、この間は山の横からの噴火じゃなかった、山頂からの本格的な噴火だったものですから、この先は安定期に入るんじゃないかなというふうにも言われておりますので、是非この山に来訪者が登れるようになればと思います。私も途中までちょっと登らせていただいて、風が猛烈だったものだから断念して下りてきたんですけれども、景色が素晴らしいんですよね。ぜひ、こういう風光明媚なところを皆さんも楽しんでいただきたい。エコツーリズムとかトレッキング、バードウオッチング等々にも力を入れていただきたいし、それからバイクレースもやっておりますので、スポーツの島というイメージも押し出されていかれたらいいのではないかなというふうに思います。

やはりこちらでも人口減少が起こっております。20 年前の噴火で人口が 3,800 人から 2,500 人になったということもあるんですが、実際に若いファミリーとかシニア層まで、かなり幅広く楽しめる、そういう場でもありますし、あるいは半分埋まっちゃった学校が、もちろん廃校になっていますけれども、そのまま残されていたりして、そういう自然の驚異を学ぶにもいい島ではないかと思います。

釣り客も多いそうです。やっぱり泊まってほしいですね。釣り客はもう、釣ったらすぐ帰っちゃうらしいです。

最後は神津島です。神津島につきましては、これは遠藤局長とも向こうでお目にかかりましたけれども、前田村長がご一緒くださり、一生懸命ご案内くださったということで、隅々までよく分かりました。

こんな形をした島でございます。天上山という素晴らしい名前の山があります。そして、実際には人口も約 1,800 人ということで、結構島の方がたくさんいらっしゃるんですが、この山と海のコントラストが素晴らしいですね。ここは日本かなという感じの景観が広がっている多幸湾というところは、ぜひ皆さん行かれたらいいかと思います。地下水も沸いております。

そして、あとは湧水でクラフトビールを作っている、おしゃれなバーもありますから、若い方が行かれるといいんじゃないかなというふうに思います。

また、はるか展望台というところの夕日が抜群に綺麗ですね。そして、とてもいいキャンプ場もございます。

それから、この写真の右下はキンメダイですね。もう本当に、大量に獲れておりまして、出荷量は、実はこの宝島の中でナンバーワンだというふうにも聞いております。

それから、星の観察等も大変に見えやすく、それをしっかりと説明してくれる方もいらっしゃるというようなところが特徴でございました。

「神が集う島」という意味なんですね。非常にストーリーもありますし、それから荒々しい岩肌、断層がある一方で、非常においしい海の恵みとか、あるいはとても優しい人々との

ふれ合いというのも素晴らしいところであります。

それから、学校に、例えば東京都とか、本島から人を受け入れていまして、そこでもって、島の子供たちと都会っ子が交流をするというようなことが起こっている。これも素晴らしいと思いました。

今後の改善点、特に大きな改善点はないんですけれども、キャンプ場、今、頑張って磨いておられるところなので、ここの整備ですね。グランピングなんていうのも今後やられたらいかがかなというふうに思います。

非常に素晴らしいお土産があるはずなんですが、買える施設がもうちょっと増えてもいいかななんていうふうにも思いました。

すばらしい三つの島、足早ですけれども、ご紹介致しました。

こういう可能性のある島々だったんですが、他の委員の皆様はいかがだったでしょうか。

それでは、今度は河野委員から、新島に行かれたんですね。宜しくご報告ください。

【河野委員】

それでは、私、河野のほうからは、11 月 20 日に新島のほうに行ってまいりましたので、ご報告させていただきます。

まず、新島へは、東京から南に約 160 キロということなんですが、調布の空港から飛行機で行ってまいりました。

まずは、やっぱり美しいビーチというところなんですが、先ほどもあったように、台風の影響で、この海岸道路が大きく崩落してしまったり、あとは海岸の砂浜がかなり侵食していて、きれいな白い砂浜があったはずというところで、かなりの被害というところは確認できました。

しかしながら、砂浜に関しては、季節が変わっていくと徐々に回復するというふうにお伺いしたので、それを期待したいなと思っているところです。

また、新島はやはり一番有名なのがコーガ石で、このコーガ石の街並みがとてもきれいであったというところですね。

この島自体は、昔、観光ですごく人気だったというのもあって、島の特徴をよく理解していて、この石材を本当にいろんなところでうまく利用しているなというのがありました。

先ほどの街並みだけではなくて、島の施設の周りには、この石で造った動物園があって、いろんな動物が石でいるんですけども、こういったもので子供が遊んだりするところにも、ちゃんと石材を生かしているですとか、また、この石というのが新島ガラスに活用できますので、こういったところでガラスを石と組み合わせて、いろんなところの石碑にしたりとい、うまく活用しているなというのがありました。

このガラスのアートセンターなんですけども、ここは結構、海外からもガラスのいわゆるデザイナー、アーティストさんを迎え入れて、人材交流じゃないですが、一緒にいろんなイベントをやったりというところで、島であってもダイバーシティが進んでいるなと感じた

ところです。

もう一つありますのが、村営のロッジに行ってまいりました。お聞きすると、もともとは家族利用を想定していたので、ベッドも幾つか用意していたらしいんですけども、今は一人利用の人が結構多くて、ベッドがちょっと空いてしまっているというところで、宿泊施設が足りないという現状の中、一人利用が増えている。いいような、でも、一つ課題だなと感じました。

右にいきますと、これはキャンプ場で無料なんですが、かなり施設がきれいです。かつ、海外からのお客様のことも考えて、トイレも、高さとか、いろんなところに工夫をしていらっしゃって、後でレビューを見たんですけど、いろんなインスタグラムに上がっていますし、レビューでいろいろ書き込まれているのが、いろんな言語で書き込まれていて、本当にいろんな国からこのキャンプ場を目当てに来ているというのが、よく分かりました。長い方は、何週間とか、ずっとここにいらっしゃるというところで、無料なところを利用しながらも、村にぜひ、もうちょっとお金を落としていただくような仕組みがあったらいいなとは思いました。

あとは、島会議にも参加されている方たちと、空き家をコミュニティスペースとしている場所で、実際にいろいろとお話をさせていただきましたが、この方たちがかなり活発に活動している島だったので、ぜひこういった若い方たちの意見を取り込むというのを、引き続きやっていくのがいいかなというふうに思いました。

ブランド化に向けてということで簡単にまとめました。台風による被害はあるものの、青い海と白い砂浜、そしてコーガ石などなど、やはり観光にはとても適していて、それがよく分かっている島だなというふうに思いました。

その上で、抱えている課題というのは明確で、二つではないかなと思っています。

1 個は宿泊施設。ここにもありますが、年間の来島者数が 5 万人に対して宿泊施設が 43 軒、定員が 1,200 人というところで、ここがかなり課題で、目玉となる新施設の大きなもの 1 個というよりは、結構、民泊のような細かいところも強化しないと足りないのではないかというふうに思ったというところです。

あとは、島内の移動手段も課題だと聞いていたんですが、島会議でいろんな提案をされているようなので、こちらはその活動の支援を継続したいなというふうに思っています。

残りわずかですが、少しご紹介をさせていただきますと、これを踏まえて、私のほうから何かご提案というところで考えてみたんですが、２点ほど。

宿泊施設に関しては、例えば観光庁さんとかがインバウンド対応ということで補助金をやられていらっしゃるとお聞きしています。特に、今年度からは金額も引き上げてということなんですが、これがどのくらいワークしているかわからないんですが、やっぱりこういったものをもっと活用することが重要ですし、あと、島に行きますと「電子しまぽ」という電子マネーが存在していました。こちらも都の助成金があって、ユーザーさんからすると 2,000 円余分に商品券が来るというところなので、ぜひこういったものも、もう少し周知す

るといいのかなというふうに思いました。

次に行きまして、これは私、戻ってきてから、こういう島だと何かできないかなと思って、弊社のいろんな部署があるんですけどヒアリングをしてみました。すると、土地の情報をもっともっと提供してほしいというのが、事業をやっている私たちからの要望として上がってきました。

例えば、うちはトラベル事業をやっているんですけども、そういう土地の情報があれば、宿泊データ、うちが持っているデータをもとに収益がどのぐらいなのかとシミュレーションすることはできるので、そこでご協力をさせていただいて、何かサポートできないかなという声が上がりました。

また、今、民泊のそういったものも、私たちもやらせていただいているんですけども、例えばそういった土地の情報があって、そういうデータがあると、地方創生のファンドをご紹介したり、あとは弊社のほうでやっているそういった民泊のサポートをするということができるので、まずお願いしたいこととしては、土地の情報をぜひ、空きの土地があればご提供いただきたいという話があったので、ご紹介させていただきます。

次は、もう見ていただければ分かるんですけど、私たち、民泊を作るといっても、個人がやったり、本当に難しいと思うんですけど、例えば弊社だと、ブランドをお貸しして、そういったノベルティとかもサポートするみたいなことをやっているので、島で少しでもやる気のある方がいらっしゃれば、ぜひそういったものを支援させていただきたいなというふうに思った次第です。

宜しくお願いします。

【山田委員長】

よろしいですか。ありがとうございます。

それでは大洞委員、続けて、利島の報告をお願いします。

【大洞委員】

大洞です。利島に行ってまいりました。天気が悪かったのに、我々が移動しているときだけ雨がやむという、奇跡的な中で行ってまいりました。

大島からヘリコプターで利島に入って、すぐ、この左側の利島の村役場で前田村長からご丁寧な説明を受けました。

利島は、お話を伺うと人口 300 人を少し超えるところでずっと一定しているらしく、非常に印象に残ったのが、I ターンの方々がきちんと定着をしていると。それが人口をきちんと保っているというところがあって、またこの方々がいろんな意味で力にもなっているというところ、ちょっと後で出てきますけれども、そこが非常に印象的でありました。

郷土資料館等も行きまして、ここも、縄文時代からすごいなというところでした。

古くから使われた、この水がめというのは、まさに前田村長が今説明していただいている

ところですが、昔、集水のシステムがなかったところでこういう知恵を使っていたということ。

それから、右側の南ヶ山園地、ここからいろんな伊豆七島が眺められるわけですけれども、夜は大変な星空になるそうです。

この左の海産物、ここの漁業は、なるほどと思ったのは、きちんと漁期を限っているということ。それから、巨大なサザエがあってびっくりしたんですけれど、サザエ、小さいやつだとまた海に戻しちゃうらしいんですね。そういう意味で、大変に、どこに行っても本当に大きなサザエしか獲らないというところが、非常に規則のある漁業でいいなというふうに思いました。

結局、何といってもやっぱり椿なんですね。島中が椿に覆われているという状況で、今、視察しているところですが、はい、次に行きましょう。

この椿の中で、林の中で、この椿の実を拾っておられる農家の方がこの左上に写っているんですが、利島の場合、その椿を、地面に落ちた実を拾って、そこから椿の油をとるという作業なので、この下草を刈ったり、拾ったり、集めたり、これは大変な作業だなということがよくわかりました。

その椿の実を運搬するのが、右側のこのモノレールみたいな施設なんですが、それを運んで、この精油センターに運ぶんですが、これは後でまた申し上げますが、この精油センターのいわゆる精製のレベルが非常に高いのでびっくりしました。その椿油をどういうふうに今後ブランド化していくかということで、意見交換というのがこの右側で行われたということであります。

まとめですけれども、今回、利島といって、私も最初のころは、というか皆さんもそうだったんじゃないかと思うのですが、利島って、「ああ、そういえば聞いたことあるよね」ということだと思うので、そういう意味において、やっぱりブランド化ってものすごく大事、特に利島みたいなところにとっては非常に大事だと。

そのブランド化は何かというと、今回やっぱり訪れてみて、やっぱり椿油なんだと。利島は本当に椿だらけの島で、歴史があって、この「椿の島」というストーリーに加えて、この品質が素晴らしい。この精製度のレベルというのが大変に良くて、実際に私も戻ってきて椿油を使っているんですが、全然酸化しないし、そういう意味では、いつ使っていても、全然、椿のいわゆる嫌な臭いがしないものですね。それから、Ｉターンの意欲ある人材が関わっているという意味で、非常に原動力のある事業だなというふうに思いました。

そういう意味で椿油事業は、今後キラーアイテムの開発を進めて、マーケティングの進化が求められるということなんですが、今後、いろんなインフルエンサー等を集めるとか、いろんな意味で椿の支援の幅を広げる余地もあるんじゃないかなということは感じたところです。

椿以外の観光地としては、ある意味非常にアクセスが悪いものですから、これは、どちらかというと、利島というよりは全体で考える必要があるなというふうに感じた次第です。

以上です。

【山田委員長】

どうもありがとうございました、大洞委員。

それでは、宜しくお願いします。楓委員。

【楓委員】

絶海の孤島、青ヶ島に行ってまいりました。

１泊２日の行程で、ちゃんと行って帰って来られるのかというぐらいドキドキしたんですけれども、ご存じのように、まず八丈島に行って、そこから船ですが、この船の就航率が50%、戻ってくるときのヘリコプターの就航率が 80%から 85%ですので、行程どおり行けたということが奇跡に近いということなんですね。

まず三宝港、青ヶ島港に着きます。

一言で青ヶ島を言うと、イコール「覚悟」という言葉が一番ふさわしいと思います。行く我々も覚悟をしていかなきゃいけないのですけれども、住んでいらっしゃる方も、この島に住むという覚悟をしっかりと持っていらっしゃるということで、「絶海の孤島」であり、「覚悟の島」というのが一番印象に残りました。

それで、「ひんぎゃ」という、地熱でこういった湯気が上がっているところがあるのですけど、これを使ってお塩を作っています。このお塩は非常に貴重で、なかなか手に入らないようです。女性の方が作っていらっしゃいますけど、彼女は非常に意欲的で、彼女の本当に語る、語ってくれるというところに惹かれる方も多いのではないかなと思います。

それから、オオタニワタリという植物が右にありますけれども、実はこれがあおちゅうに使われているんだということで、森の中のストーリーとお酒のストーリーというのが結びつくというところが非常に特徴に感じました。

あおちゅうに関して、ブランドに関してはこれからお話があると思いますけれども、とにかく、８人の杜氏さんが作られるあおちゅうが、それぞれ味が違うというところが、あおちゅうの一番の宝のところかなというふうに思っております。

青ヶ島はどんなことをしていくといいかなということを四つご提案しますけれども、私は最初に書いてあるこの一つ目、これが全てを言い表していると思います。160 人の島ですから、子供さんは別としても、大人が幾つかの役を担わないと島が成り立たないと仰っているんですね。

例えば、自動車会社整備工場の社長さんであり、ネイチャーガイドをやって、ミュージシャンをやっていらっしゃるとか、とても大事なお仕事をされている方が実はあおちゅうの杜氏さんでいらして、ご自分で農業もやっていらっしゃるとか、もう 160 人の島、一人一役では回らないんですよというところがこの島の特徴で、もちろん日本のいろんな島はそういう島がたくさんあるんですけれども、東京の島でこういうマルチ、一人何役もして島を支

えていらっしゃるというところをアピールしていく。観光的なアピールではなくて、そこがこの島の肝じゃないかなと思って、１泊２日を過ごしてまいりました。

二つ目は、いつも私が申し上げていることで、島だからこそできる情報の一元化です。いろんな予約だったり、予約も、宿の予約やアクティビティの予約、できればヘリコプターや青ヶ島の予約、それが一元化することによって、島の方も安心しますし、訪れるほうも、そこから情報が得られるというメリットがあると思います。次、お願いします。

先ほど、神津島も星の島だと仰っていたんですけども、青ヶ島も星が素晴らしいそうなんですが、残念ながら雨に降られておりましたけれども、今、観光庁が実は宙ツーリズム推進協議会というところをバックアップされていますので、ぜひこういうところと、神津島もそうですね。東京の島がなかなか、石垣とか他の島は入ってきているんですけれども、そういう意味では宙ツーリズムというキーワードで東京の島をアピールするのもいいと思います。

それから四つ目は、あおちゅうのブランド化に関しては、これからお話があると思いますが、あおちゅうと一緒に食べたい食のところをもう少し力を入れていただきたいなと思います。島で一番おいしかったのは、ひんぎゃで蒸してくださった、地元でとれた里芋。本当においしかったです。もっちりした感じで。このお料理をもう少しブラッシュアップすると、あおちゅうアンド青ヶ島の食ということで、アピールができてくるのではないかなと思っています。

非常に貴重な経験を致しました。ありがとうございました。

【山田委員長】

ありがとうございます。

私も前回行ったんですけども、本当に素晴らしい島ですよね。

さあ、この後、今日はご欠席ですけれども、アレックス委員からビデオレターが、３分程度ですけど届いております。楓委員と一緒に青ヶ島に行かれたんですよね。

では、アレックス委員のビデオレターを見せてください。宜しくお願いします。

（アレックス委員のビデオレター上映）

【アレックス委員】

先日は宝島会議で、いろんな島の発表がありまして、本当に魅力的な島が多いということに気づきました。

その中で、空中から見て、神秘的な青ヶ島に前々から行きたかったんです。今回はやっと行けたんですけれども、本当に行きにくいんですね。空港から、羽田から八丈島まで飛んで、次の朝、ぎりぎりまで、行けるか行けないフェリーに乗れて渡りました。次に、１日に１便しかないヘリコプターで帰ってきたわけです。

行く前から、観光面で何かができないかという思いがありましたけれども、やはり、これだけ行きにくい島だと、宿泊は、観光は難しいんじゃないかと逆に思うようになりました。

一方、青ヶ島で見てきた素晴らしい自然、歴史、そういうものからできてきたお塩、そして焼酎に大きな可能性があることが分かりました。

塩に関しては、火山で土から沸き上がってくる湯気を使って、独特のやり方で作られている塩、ひんぎゃというのがありまして、それはなかなか珍しいものですね。

もう一つあるのが、あおちゅうという焼酎で、あれは森の中にあるタニワタリという長い野生植物の葉っぱがありまして、それに生えるカビを使って独特の味の焼酎を作ります。

また、島の珍しい伝統としては、各家のお母さん方がつくってきた焼酎の伝統としてでき上ったものを、今でも共同的に使われている酒蔵の場所は一つなんですけど、各家が「今週は誰々、来週は誰々」というふうに作っています。名前もお母さん方、「直子」とか、「順子」とか、「マツ」という名前もついています。そういうものを面白くブランディングとして、行けない島のミステリアスなおいしいものとして世の中に広めれば、いい事業ができると思います。

将来的に日本のサントリーニだと言える場所なので、まず、あおちゅう、ひんぎゃのブランディングから始まって、いずれは世界的に、美しい、素晴らしい観光もできるのではないかと思っています。

【山田委員長】

素晴らしい、本当にね。

青ヶ島にこの中で行かれた方は？行っていらっしゃらない？行くべきですね。もちろん他の島も素晴らしいですけどね。

ここで、知事が別の公務により退室をされるということなので、その前に知事から一言お願いをいたします。

【小池知事】

それぞれの島に足を運んでいただいて、本当にありがとうございます。

やっぱり行ってみないと、良さも分からないところもあろうかと思いますけれども、でも、この行きにくさを、どう、むしろ価値にするか。

それから、やっぱり共通して言えることは、より経済的な効果を生み出すための付加価値をどうするか。宿泊とか飲食ですよね。もったいないですよね。そのあたり、まさしくブランド化ということで、この後もご議論いただきたいと存じます。

本当にいろいろとお世話になっております。ありがとうございます。

【山田委員長】

ありがとうございました。

それでは、ここで知事が退室されます。

（小池知事退室）

【山田委員長】

それでは、会議は続きます。

先ほど大洞委員と楓委員から視察の報告をいただきましたけれども、昨年度から「東京島しょ産品ブランド化支援モデル事業」によって、島の特産品である利島の「椿油」、それから青ヶ島の「あおちゅう」のブランド化というのを進めているということでございます。

その点について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

産業労働局商工部の土村でございます。

私のほうから、東京島しょ産品のブランド化支援モデル事業の取り組み状況につきまして、ご報告申し上げます。

本事業は、島しょ産品の高付加価値化に向けて、利島産の「椿油」と青ヶ島産の「あおちゅう」の二つの産品を対象に、ブランディングや販路開拓などの支援を行って、モデルケースを構築するものでございます。

まず、利島の椿油のほうでございますけれども、ごらんの３点につきまして取り組み状況をご報告申し上げます。

まず１点目は、ＣＯＳＭＯＳ認証の取得でございます。

ＣＯＳＭＯＳ認証というのは、オーガニックコスメの世界統一基準でございまして、特に欧米では消費者が信頼される商品を選ぶための判断基準としてかなり広まっているものでございます。

オーガニックコスメに対します消費者の意識が高まっている中、ＪＡ利島店さんは、この６月、椿油としては国内で初めて、このＣＯＳＭＯＳ認証を取得してございまして、現在、新商品の開発に着手しております。

右下の画像は新商品のイメージになります。ちょっとここに実物がございますけれども、こんな感じでパッケージと物を示してございます。

次に、商品ラインナップの再構築でございます。

現在の商品ラインナップは、上段にございますように、物が全てばらばらな感じのイメージでございまして、今回のリブランディングにおきましては、美容や健康にこだわりがある主に 30 代以上をターゲット層として設定しまして、そこに訴える高級感というコンセプトで進めてございます。

こうした層に利島産椿油を認知いただけるように、神代椿（かみよつばき）、これは利島の椿の原木と言われるものでございますけども、その神代椿という統一したブランド名を立てた上で新商品を開発するとともに、パッケージや容器も、今、回してございますように、高級感のあるデザインとなるよう検討を進めてございます。

こうした椿油の魅力を効果的に発信するためのPRツールとしまして、新たにパンフレットを、このような形で、販売店さんですとかバイヤーさんのほうに説明ができるようなパンフレットの作成でございますとか、あるいはウエブサイトの再構築にも取り組んでございます。

例えば、顧客の方が椿油の使い方を具体的にイメージできますように、頭髪のトリートメントとして使用する、あるいは、入浴後に乾燥しがちな肘、踵等の保湿として使用できることを紹介するなど、利用者目線に立ったPRツールの検討を進めております。

あわせまして、新商品の販路開拓にも取り組んでおりまして、現在美容室やホテルなど、五つの事業所の方々と取引開始に向けまして、ご相談をしているところでございます。

続きまして、青ヶ島のあおちゅうのほうでございますけれども、ごらんの５点につきまして、取り組み状況をご説明申し上げます。

まず 1 点目ですが、テイスティングマップを鹿児島大学の協力の下で作成させていただきました。

このマップというのは、先ほどもお話にございましたけれども、芋や麦を使った一般の焼酎とのあおちゅうの違いや、あおちゅうの中でも杜氏によってそれぞれ異なる多彩な味わいをわかりやすく示したものになってございます。

今後は、飲食店ですとか酒販店向けの販促ツールの一つとして活用することを想定してございます。

また、杜氏ごとに味わいや香りが異なることが、お店を訪れた消費者の方にも一目でわかりますように、つくり手の顔が見えます、こういう首掛けラベル、こういったものを実際に杜氏さんのお名前と顔写真が入ったものもあわせて掛けるというような工夫もさせていただいております。

そうした個性豊かなあおちゅうの魅力を知っていただくきっかけづくりとしまして、複数のあおちゅうを気軽に楽しめますように、飲み比べセットの開発も行っております。

このような、小さな小瓶で３種類セットでお試しということで、お手ごろな価格で販売するものということでございます。

また、これまでにご説明してきました、あおちゅうの特性や希少性、商品ラインナップをわかりやすくまとめたパンフレットの作成にも着手してございます。

さらに、あおちゅうファンを獲得するという意味で、青ヶ島を訪問して醸造工場の見学や、青ヶ島の歴史文化に触れる現地ツアーを開催しましたほか、島に行かなくてもあおちゅうを楽しめることができるイベントなどを開催したところでございます。

販路開拓につきましては、既に飲食店等３事業者と新たに取引を開始してございます。また、そのほかにも、さらに３事業者と取引開始に向けてご相談をしているところでございます。

以上でご報告を終わります。よろしくお願いいたします。

【山田委員長】
どうもありがとうございました。
これ、まだ販売はされていないんですか。これからなんですか。飲み比べセットとか、それから椿油のほうも、今のはサンプルですか、見せていただいたのは。なかなかいいデザインだと思うんですけども、どんどん前に進めていただいているというのは、非常に喜ばしいことだなというふうに思います。
今の東京島しょ部の産品ブランド化支援の状況というのも踏まえまして、それから皆様方が訪問してくださった各島の状況等も踏まえますと、もちろん一気に加速するというのはなかなか難しいかも分からないんですけど、ブランド化に向けて島の皆さんが気付かれて、粛々と前に進み出したかなという気がしております。
皆さんのご意見なり、ご感想をちょっと伺ってまいりたいと思うんですが、大洞委員、いかがでしょうか。

【大洞委員】
全般的な話ですけれど、やっぱり青ヶ島もそうでしたし、利島もそうなんだけれども、何か、観光だけで物が成り立つという環境条件ではないので、そういう意味では、実際に観光すると本当にすごいんですけどね。すごく面白い、いいところなんだけれどもやっぱり天候や海の状況もあるので、そういうことを踏まえた、いろんな人への、観光客へのいろんなアドバイスの仕方とかというところに、すごく工夫が必要かなというふうに思うのと、それから、行ってみれば、やっぱりちゃんとあるじゃないかと。実際に椿油もそうですし、あおちゅうもそうなんだけれども、きちんとやっぱりアピールできるものがあるじゃないかと。これはやっぱり磨く力が、明らかにこの１年間でまた徐々に増えてきていると思うので、多くなっていると思うので、これをさらに進めていく、まさにそこに尽きるんじゃないかなというふうに思いました。

【山田委員長】
ありがとうございました。
楓委員、いかがですか。

【楓委員】
今回、青ヶ島に伺って、「島会議に出ています」と仰る方と話しました。島会議という場ができて、そこで島の方といろんなことを話し合えるという、その場ができたということを非常に面白がったり楽しんでいらっしゃるということなので、そこからすごく、今仰ったように、劇的に何かが変わるんではなくて、じわじわと島の中でエネルギーが溜まっていくという、そういう印象を受けました。
一つだけ、利島の椿油の可能性ですけれども、最近イスラム圏からのお客様が非常に増え

てきていまして、残念ながら、あおちゅうは飲んでいただけないんですが、ハラルの化粧品というのに非常に注目が集まっています。特に、東京産のオーガニックのコスメということで、この利島の椿油は非常に可能性があるという印象を持っております。

以上です。

【山田委員長】

ありがとうございます。

椿油以外に、例えば小豆島だとオリーブオイルとかね。でも、そういうオーガニックなものって、すごく今、女性の方も注目をされていますから、伸びる余地がすごくあるような気がいたしますね。

それでは、河野委員、いかがでしょうか。

【河野委員】

ありがとうございます。

実際に製品というかパッケージがいろいろ上がってきて、まさにここからブランディングが加速するんだなという形で、目の前にすると、やっぱり椿に関しても、椿油も確かに変えていったほうが、今の時代だったり今のユーザーさんにはすごく刺さるんじゃないかなと、すごく楽しみだなというふうに思いました。

島に何度か行ってみて思うのが、やっぱり不便さをどこまで売りにできるかだと思うんですけど、不便なのが、それが楽しみであるのって、ある意味、日本人だけじゃなくて、インバウンドの方こそ、むしろ日本の本来の日本を知りたいじゃないですけども、いろんなそういうものを楽しむ傾向がすごくありますし、来年オリンピックというのもありますので、ぜひいろんな島がインバウンドをできるといいなというふうには思いました。

また、島会議なんですけど、今回、結構な熱量で島会議に参加されている方と直接お話ができたというのもあると思うんですけど、やっぱりこういう人たちを支えていくと変わる可能性はあるなと本当に思いました。

女性だったんですけど、彼女の話を聞いていて、一番ネックになるのは何だろうと思ったんですけど、むしろ島の中だというお話がありまして、島の外に発信したときに、例えば、今回の私たちの委員だったりとか、都だったりというのは、かなりいろいろ支援をして、新しくどんどん、どんどんブランディングをしていくというふうに動くんだけれども、島の昔からいる方たちの気持ちをそこに一緒に向かわせるのがとても大変だというのを仰っていて、確かにそうだと思うんですね。

なので、私たちの仕事はもしかしたら、全部昔のものを壊すのではなくて、いいものを今後に残すために、こういう一つ一つのアクションが必要だというのを、私たちも島の人たちに伝えていくことは結構重要なんじゃないかなというふうには思いました。

【山田委員長】

やはり長老の意見とかその辺はあると思いますからね。

いろいろな島を、この会議を通して、委員会を通して巡っていて私が思ったことは、やっぱり情報発信ですね。今、これだけ SNS が発達をして、みんなそれぞれが情報発信者になれるという時代ですので、ぜひ島を訪ねた人たちは積極的に、我々自身もそうですけれども、この良さとか、素晴らしさとか、奇跡的なことがいろいろとあるわけで、それをどんどん発信をしていくことが大事かなというふうに思いました。

その意味では、何か島のポータルサイト的なものがあってもいいと思うし、それから、今、あおちゅうが脚光を浴びているんですが、さっきどなたかが仰っていたように、焼酎というのはほぼ各島にあるということで、こういうものも宝島焼酎という集合体として、宝島としての一つのまとまりの中で、もっともっとプッシュをしていくということはできるんじゃないかな、そんなふうに思った次第です。

（２）第４回東京宝島会議実施報告

【山田委員長】

それでは、二つ目の議題にここから移りたいというふうに思います。

今、触れていただきましたけど、第４回の東京宝島会議の実施報告ということになります。

アレックス委員と私もアドバイザーということで出させていただいたんですけれども、まずはじめに、事務局から会議の様子についてご説明をいただきたいと思います。

【事務局】

事務局からご報告いたします。

11 月 25 日に各島の取り組み状況の共有、またブランド化に向けた機運の醸成を目的として、第４回の東京宝島会議を開催いたしました。

会議では、今年度島会議を行っている７島によるブランドコンセプトの中間発表、また昨年度島会議を行った４島の取組状況の報告が行われました。

会議は、各島の島会議参加者など約 80 名にお集まりいただき、3 時間にも及びましたが、皆さん熱心に取り組まれていらっしゃいました。

今回の会議により、11 の島のブランドコンセプトが出そろいました。島会議の参加者が島の魅力やその磨き上げについて議論した内容をコンセプトとしてまとめたものがこちらになります。

昨年度から取り組みが始まった大島は、「ちょうどいい」が見つかる、行きつけになれる島。

また、今年度から始まった青ヶ島は、自力に目覚める、絶海絶景の島。

また、父島は、ありのままにいのちが輝く、別世界を生きる島というコンセプトがまとまりました。

このブランドコンセプトに基づき、ブランド化に向けた具体的な取組に繋げていく予定です。

例えば、神津島では、外国人旅行者を対象に漁村体験ができるツアーを実施したり、新島では島内交通の充実に向けた取り組みを検討したりしているところです。

また、２月～３月にかけて、各島の成果発表の場となるイベントを開催し、取組を支えるビジネスパートナーとのマッチングや、宝島事業のＰＲを行う予定となっております。

本会議には、東京宝島推進委員会から山田委員長とアレックス・カー委員がゲストアドバイザーとしてご出席いただき、ご助言をいただきました。

事務局からは以上でございます。

【山田委員長】

どうもありがとうございました。

私からも一言だけ、実際に出席をさせていただいたので申し上げますけども、このムーブメントの最大の成果の一つが、この会議だと思うんですよ。各島でそれぞれ議論をする。そして、それを持ち寄って、なかなかお互いに行き来がしづらい環境もありますので、島の方々が一堂に会して、またそこで報告をしたり、議論したりするって、これはもう本当に素晴らしいなというふうに思います。

したがって、いわゆる宝島間の交流が芽生えて促進されていると、ひょっとすると、そこでコラボレーションが起こるんじゃないか。何か新しいものができるんじゃないか。さっき申し上げたような、いろんな島々の焼酎をまたまとめて売り出すとか、いろんなことが考えられるわけなんですが、こうした会議というのが、皆さんによって、ある意味運営され、かつクリエイティブに作られているというところが素晴らしいなというふうに感じた次第です。

委員の皆さんもどうでしょうか。今、第４回の東京宝島会議の報告を聞かれて、あるいは地元でこの会議に出られる方とお話をされたというようなご経験もおありということなんですが、ご意見をいただけないでしょうか。

河野委員から。

【河野委員】

そうですね。先ほど地元の人と話してすごく活発だったという話があったと思うんですけど、さっきの委員長のお話につながるんですけど、私がこうやって視察に行った後に必ず、せっかくなのでと思って投稿をするんですね、SNS に。そうすると、思っている以上の反響で、「実は昔、島に行ったけど、最近行く場所として選択していなかったけど、もう一回まわろうかな」とか、結構そういうコメントが多いんですよね。

実際には、目に触れるものの中から入ってどこか休みのときにというところなので、目に触れる機会が増えていけば可能性は大いにあるかなと思っていて、いろんなものが目に触

れる機会を増やすべきですし、あとは何よりも、この東京宝島のロゴができたのが、私は大きいかなと思っていて、島が何個なんだろうというのは、これを数えればいいとかということとかが、結構繋がっていくんじゃないかなと思うので、ぜひ来年は、このロゴがもっともっといろんなところの目に触れるといいかなというふうには思いました。

【山田委員長】

本当にありがとうございます。

飛行機で移動とか、ヘリコプターにも付いていますし、いろんなところでシンボルマークを見かけるようになって、非常に嬉しく思っております。ブランド化の一つの可視化ということで、お使いになっていただければなと思います。

楓委員、お願いします。

【楓委員】

先ほど委員長が仰っていた、実は島と島、本当は近くでもそんなに行き来しているわけではないんですね。特に、八丈島と青ヶ島は本当に交通も不便なんですけど。

そういう意味で、ここで、お隣の島は何をやっているんだろうとか、あちらの島はこうなんだって、別に同じことをする必要はないんですけれども、それを共有し合うことによって、じゃあ自分のところの島の際立て方はこうしようという戦略・戦術が出てくるはずです。この一堂に会するという意味が、非常に大きいなという印象を受けております。

【山田委員長】

ありがとうございます。

大洞委員、お願いします。

【大洞委員】

一つだけ。背中を押す。本当に今回、利島でも思いましたけれども、現地でブランド化をするんだと頑張っていらっしゃる方々、やっぱり自分たちも初めての経験であるということもあるし、そういう意味で、みんなで背中を押してあげるということ自体が非常に効果があるし、今のこの活動のやり方ということも非常に功を奏しているんじゃないかというふうに、感想として思いました。

【山田委員長】

ありがとうございます。

本当にそうですよね。実はこの間の会議の中で、ある方のご発言で、実際にブランディングの手法というのは企業向けにできているんじゃないんだろうか。それは島の文化とか、島の産品開発とか、島の人々にとって有効な手法なんだろうかというご意見をちょっと耳に

したんですけれども、今回の島ごとの会議では、ファシリテーションのご経験が豊富な方を含めて、いわゆる島の人でない人たちも中に入り込んで、頑張って議論を盛り上げていると思います。

そういう意味では、こういう議論をする機会ができたということをうまく前向きに捉えていただいて、どんどん自分たち流のブランドづくりというのを、それぞれの島が個性的なほうがいいんですよね。その島の特徴をとらまえてやっていただきたいなと、そんなふうに思います。

ですから、後押しはしますけれども、無理やりに引っ張るということもしないというのが、この委員会のいいところじゃないかなというふうに思っております。

また、我々自身が島々にほれ込んでいますから、もう既にね。ちょっと島に恋しているという、そういう感じで見ておりますので、ぜひご一緒に頑張りましょう。後押しします。

さあ、いろいろとまだご意見もおありかと思いますけれども、このあたりで意見交換を終わりにしたいと思います。

事務局から連絡事項等がありましたら、よろしくお願いいたします。

【事務局】

次回の委員会の日程については未定でありますが、事業の進捗等については、適宜、ご報告をさせていただきたいと思います。

以上です。

【山田委員長】

ということで、この東京宝島推進委員会も、立ち上げから足掛け、もう３年になるということで、島の方々の熱意もあって順調に取り組みが進んでいるというふうに実感しております。

さっきも、私、申し上げたとおり、地域のブランド化にはある程度の時間がかかりますけれども、大きな成果を生み出すためにも、引き続き、この宝島の事業によって、東京都と本委員会で東京の島をサポートしてまいりたいというふうに思います。遠藤局長も宜しくお願い致します。

何か一言お願い致します。

【遠藤総務局長】

一言だけ。今日はお忙しい中ありがとうございました。

また、山田委員長とは神津島でお会いして、食事をして、ちょっと意見交換をする時間もありましたけども、今、話の中で、じわじわと変えていくというお話があったんですけども、実は私、さっきの椿油の箱を見て、ひっくり返るほど驚きまして、私が初めて職員として島に行った三十数年前から、椿油というのは黄色い箱に赤い椿の花が描いてあるということ

なので、これだけ変わるのかと思って、それはもう、じわじわじゃなくて、本当にひっくり返るほどの変化だと思います。そういう変化がいっぱい積み重なっていけば、いい結果が生まれるのかと思いますので、これからもどうぞ、いろいろな意見を寄せてくださるよう、宜しくお願いいたします。

【山田委員長】

すみません。突然お願いしましてありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、本日の東京宝島推進委員会を終了致します。

皆様には熱心なご議論と円滑な議事の進行にご協力をいただきまして、心から御礼を申し上げます。引き続き宜しくお願い致します。

ありがとうございました。

以上